

## 【(1) 学習のルール

- ①－4 「発表できている児童生徒を褒めている」
- ②－3 「聞いている児童生徒を褒めている」

### 《つまずきの背景》

L セルフモニタリングの困難さ、M 自己コントロールの困難さ、Q 状況理解の困難さ

### 《解説》

ルールを守って発表したり聞いたりできている子どもを褒めることで、その子どもは、自分ができていることを確認できます。また、他の子どもはその様子を見て、自分がどのようにすればよいかが分かります。

学級の中には、発表するときの姿勢や態度が分からなかったり、「ちゃんと聞きなさい」と言われても、どうすればよいかが分かりにくかったりする子どもがいる場合があります。教師ができていない子どもを褒めることで、それが見本となって、どうすればよいかが分かりやすくなります。

発表の仕方や聞き方などの掲示物を使いながら、どういうところがよいのか具体的に説明するようにすると、より分かりやすくなります。

### 【工夫点】

- ・ルールが守れている子どもを褒め、気付かせるようにする。(小中)
- ・ルールが守れたときは、どのルールが守れていたか示して褒める。(小中)
- ・発表名人、聞く名人を紹介し、意識を高める。(小 工夫例4)
- ・ルールが守れたときは、花丸を書いたり掲示したりして、意欲を高める。(小 工夫例5)

### ◆工夫例4 「発表名人、聞く名人を紹介し、意識を高める」

#### 《小学校》

大きくはっきりとした声で発表できている子どもに「発表名人だね」、聞く姿勢のよい子どもに「聞く名人だね」、と言葉掛けをして意識を高めます。

できている子どもを褒めることで、他の子どもはその子をまねして頑張ることにつながります。



### ◆工夫例5 「ルールが守れたときは、花丸を書いたり掲示したりして、意欲を高める」



#### 《小学校1年生》

ルールが守れたり、頑張ったりしたときは、小黒板に花丸を書きます。花丸が10個になったら、側面の掲示板に花丸を掲示し、さらに花丸が100個になったら、後ろの掲示板に花丸を掲示します。

子どもは、花丸が増えることを楽しみにルールを守ったり、頑張ったりするなど意欲を高めることができます。